

令和元年度（2019年度）第1回
北海道中山間ふるさと・水と土保全対策委員会議事録

日 時：平成31年5月24日（金）10時～12時

場 所：農政部第1中会議室

出席者：別添「出席者名簿」のとおり

議 題：議題1 令和元年度（2019年度）事業計画（案）について

議題2 令和元年度（2019年度）事業予算について

議題3 地域活動支援事業について

議 事：

(1) 議題1 令和元年度（2019年度）事業計画（案）について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

(2) 議題2 令和元年度（2019年度）事業予算について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

(3) 議題3 地域活動支援事業について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答（有・無）

[厚床地区]

山本座長) フットパスは入場料をとっているか。

事務局) 入場料はとっていない。マップを購入する形になっている。

山本座長) 事業が終わった後も継続していけるか、資金源が心配。

事務局) 事業活用中はあっとこ農園の農作物は防災キャンプで使用する予定だが、事業終了後は伊藤牧場で野菜の販売を行い活動資金としていく予定。

大熊委員) フットパスの利用者は地元の人だけではなく外部の人も対象だと思うが、あっとこ農園や防災キャンプは地元の人が対象か？

事務局) 外部として、北大や釧路教育大の学生も関わる形となっているが、対象は地元の人。

山本座長) 視察研修の場所はどこか？

事務局) まだ調整段階と聞いている。日帰り圏内で今後打合せの中で決めていく予定。

大熊委員) どういった目的の研修を考えているのか？やることが多岐にわたっているんで、どの取り組みを伸ばす研修かを知りたい。

小林委員) 前回打合せした際は、宿泊費等が出るのであれば道外で地元野菜を使

った活性化の事例があるので、そこを視察したいと話合っていた。しかし、道内で日帰りとなると中々難しい。そこで、是非みなさんのアイディアをいただきたい。

厚床地区は去年が活動の初年度で、伊藤さんが中心となって活動を進めていたが、どうしても伊藤さんや町内会のメンバーが主で、まだ地域を巻きこみきれていない感がある。防災キャンプなども、「たまたま行事があったから参加した」というような。少しずつ主体的に関わってくれる人も出てきてはいるが、もう少し地元の人と一緒にやっていきたいなと思っている。

今年度から始めるあっとこ農園については、旧厚床小学校の場所を借りて行う。地元の人たちが主体で育てることによって、日常的な関わりが生まれていくことを期待している。

そういったことを踏まえて、多世代でまちづくりを行っている、できれば日帰りで行ける範囲で良い事例を教えてください。

事務局) 厚床からの日帰りとなると中々難しい。道東方面が現実的か。となると、現地研修でも講演していただく予定の興部町「おこっぺ街中マルシェ」はどうか。

山本座長) 女満別の「大地の MEGUMI」というところは、小学生がカボチャを栽培から輝農祭での販売まで手がける食育活動を行っていた。また、「美幌高校」などは自分たちでショップを出してジャムとかを売っていたりするんで、そこはどうか。

小林委員) ありがとうございます。参考としたい。

山本座長) 小学校でも独自に畑をやっているということだが、せっかく旧小学校にハウスをつくってやるなら、学校と連携する方が良いと思う。

小林委員) 活動に参加している酪農家のお母さんが PTA に入っているんでこの事業との連携を投げかけているところ。学校の方もどうしても年度ごとに予算や計画が決まってしまうので直ぐには難しいが、来年以降連携していけるように準備をしている。

[上ノ国地区]

小西委員) 料理検討会とは何を検討する会なのか、料理開発とは何が違うのか？

山本座長) PR も、何を PR しているのか気になる。

小西委員) 内容が薄い。活動も 2 年目に入るのに、うまく事業を活用できていない印象。

事務局) 主体となるメンバーも生産者が多く、地元を巻きこんでという形が難しかったように思える。もっと地域と連携できるように今年度は活動してもらいたい。

山本座長) 活動も後半の方なので、はやく意見交換を行って軌道修正しないといけない。

大熊委員) PR や試食会の際にアンケートなどはとっているか。

事務局) とっている。

大熊委員) アンケート結果が見たい。

事務局) 確認後、送付する。

小西委員) 大体どのくらいの人数が来たかも併せて教えてほしい。

大熊委員) 昨年度も今年度も料理の開発を行う予定らしいが、今までも相当な数のレシピがあるはず。それを活用していく方向にはならないか？料理教室や料理コンテストを行うなど。

小西委員) 町の広報誌などを活用して、例えばコーナーを作ってもらって毎号レシピを掲載していくなどもできると思う。料理教室も、例えば夏休みに親子料理教室という形で行うとか。

山本座長) 地元の小学生にコンテスト形式でサヤエンドウのキャラクターを募集したり、収穫体験をしたりするなどはどうか。

この地区は生産組合の方々が中心なので、どうしても数年後にどうなっているか、どうなりたいかが見えてないのかなという印象を受ける。

事務局) 今年度も地元高校との連携は行うようだが、小学校などを対象にすると親も含めて一緒に活動ができるなど、幅が広がると思う。もう少し取組について見直す方向で、遅くないうちに意見交換会を行いたい。

小林委員) 最終年度に「絹さやえんどう料理週間開催」とあるが、これは今年行った方がよい。啓蒙普及活動をもっと行うべき。活動主体や関係者一覧を見るに、中々地域にアクセスできる人はいないかもしれないが、積極的に行ってほしい。このままでは、生産部会の PR にお金を使っているのかなという印象。

山本座長) 意見交換会に行って、我々の方から提案等をしたい。函館の料理学校や地元の小中学校の関係者の方にも来ていただいて、意見交換をしたい。

小林委員) この地区がどうなるかは、ふる水事業の力の見せ所となると思う。

山本座長) 意見交換会については、7月からと言わずに可能であれば6月中に行う方向で調整をお願いしたい。

[由仁地区]

大熊委員) この地区は、色んなことをやりたいという勢いと元気をすごく感じるが、方向性が定まっていないことがわかる。この団体は年齢制限があって40歳以上の方は卒業していくとのことだが、卒業したら本当に何

もないのか？また、年齢制限等のコンセプトについては理解できるが、農業者以外との関わりはあった方が良く思う。

事務局) クリスマスイベントなど、地域のイベントでは消費者の方とも交流しているようだが、今のところメンバーは農業者限定となっている。

大熊委員) 地域活性化を目的としたときに、メンバーとして消費者や製造加工業者も一緒にやっていたら良いと思う。

小西委員) この団体の人数は何人か。活動期間はどのくらいか。

事務局) 人数はH30時点で16名。活動期間は5年程度。わが村運動の受賞経験(第8回特別賞)もある。

大熊委員) 熱心に講演会に参加するなど勉強している団体だと聞いている。

山本座長) 地域活動と考えたときに、このままではよくない。ふる水事業ではなく、農協でやるべきことでは？となってしまうような計画にしてもらいたい。

事務局) 地域と一緒に活動していくというイメージがまだメンバーの中で固まっていないように思うので、この地区についてもなるべく早めに意見交換会を行い方向性について決めていきたい。

山本座長) 本来であればその部分は意識醸成期間中に出来上がってほしいところ。

小西委員) 乾燥野菜自体はもう出来上がっているのか。であれば、それを地元のお店で使ってもらったりはできないか。由仁町は小さくて面白いお店がたくさんあるので、連携していければ良い。

山本座長) そういう方法のPR活動があっても良いと思う。

小林委員) 札幌に来て売るより、良いと思う。既にやっているかもしれないが。

小西委員) 活動経費を見ていると、新しいことにチャレンジするための経費というよりは今までやってきたことを事業費でやっているように見える。そうではない活動をしてもらいたい。

小林委員) 活動計画の中にある目指す姿はとても良いと思うが、それに向かっていくための活動計画があるように見えない。目標と、それを達成するための活動を反映した計画を作成していつてもらいたい。

山本座長) 非農家の人たちともぜひ交流してもらいたい。みそづくり教室などは今までもやっているようだが、同じ内容でも非農家の人相手に継承した技術を拡げて「作るときはうちの大豆を使ってね」という風にすれば交流が広がり地域活性化に繋がると思う。

事務局) そういう点が、活動主体の方々には中々自分たちだけでは気付けない部分。なので、意見交換会で是非アドバイスしていただきたい。

大熊委員) この地区は去年から気になっていたもので、是非お話をしたい。書面だ

けでは見えてこない部分も多いので、現場の声を聞きたい。

山本座長) 活動計画書についてだが、いくら計画段階とはいえ3年間の活動内容が全て同じな点はいただけない。この部分はきちんと精査した上で地区としてあげてほしい。

大熊委員) 由仁地区は期待している。いまは仲間内だけの活動となっているが、地域一丸の取組となれば花開くと思う。

山本座長) こちらの地区についても、早い段階での意見交換会の調整をお願い。